

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
130

【神秘学ポエジー～風遊戯 第260集】 photo ヴァージョン

photopos 3226-3250

《2023.7.9～2023.8.2》

神秘学遊戯団

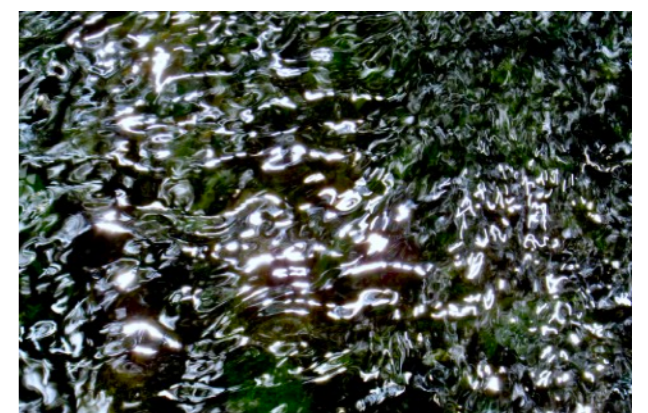
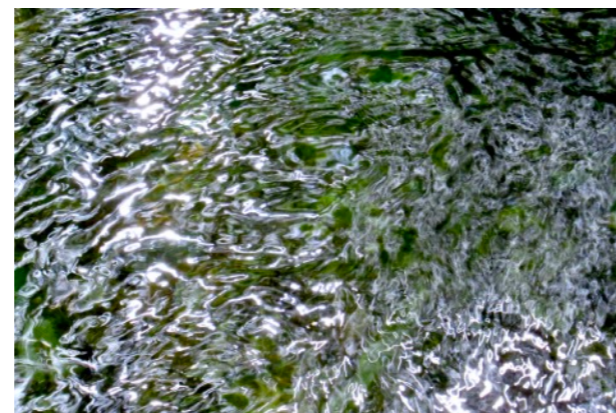
師は
導くために
存在している

役割を終えたとき
師は舞台を
降りなければならない

舞台の外で
師の顔をしていたなら
それはもう師ではない
そのとき師は
すでに師ではないからだ

師のように
歩もうとすることはあるだろうが
それは師の
猿真似をすることではない

導く師から離れたとき
はじめてひとは
みずからの道を歩みはじめる



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3227 2023.7.10

便利な道具は
ひとを自由にするが

ひとつひとつ
道具に自分をゆだね

考えることさえ
代わってもらうようになると

ひとつひとつ
じぶんを機械に置き換えていき

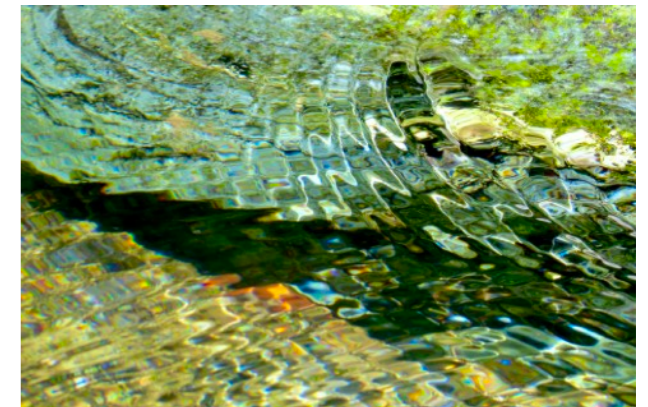
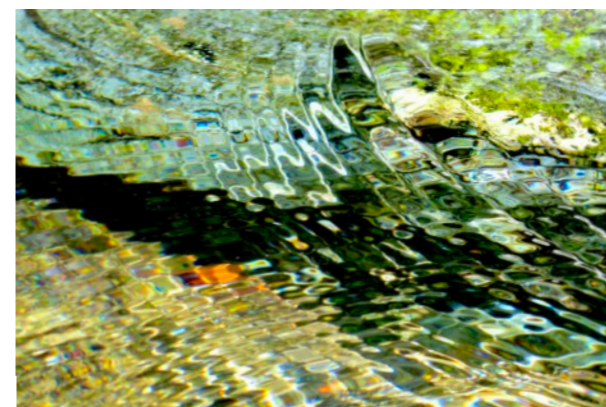
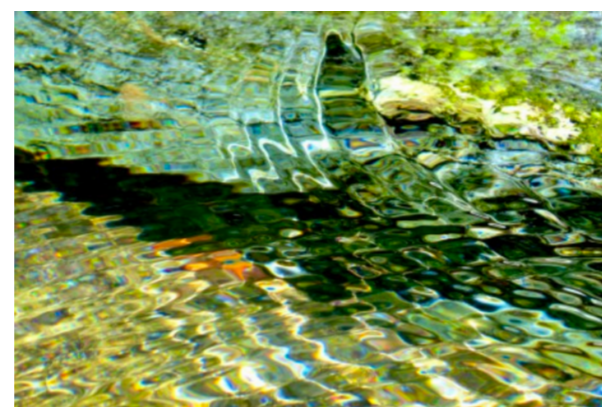
やがてすべてを
機械のからだにしてしまうときのように

自分がいなくなって
道具の一部になってしまっても

それに気づかないまま
自由になったと思うのだろうか

その自由はまるで
蛸が空腹のあまりじぶんの足を食べ始め

そのうちじぶんを消してしまうような
そんな悲しい欲望なのかもしれない



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

教えられた
らしさ
という
仮面をつけて
生きていると

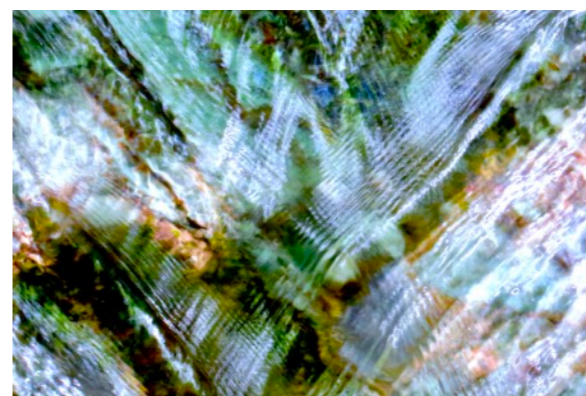
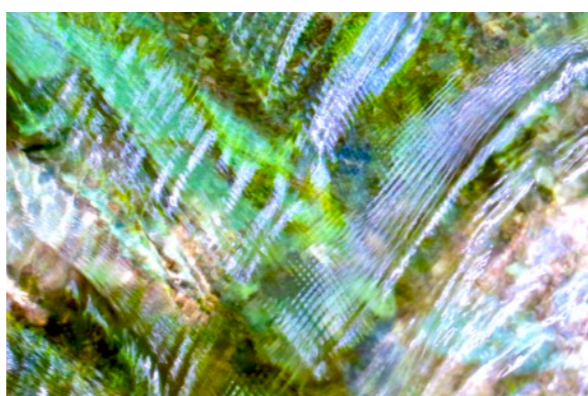
やがて
じぶんの顔さえ忘れ
らしさが
じぶんとなり

仮面を
外すことが
できなくなる

仮面を
外そうとしても
奥にあるはずの
じぶんの顔が
見つからないのだ

たとえ
仮面を
外せたとしても
そこにはまた
べつの
らしさが
現れるだけ

ならば
らしさをこそ
変えていくのだ
それが
じぶんの顔となるまで



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

世界は
ことばで
できている

ことばが
変われば
世界も変わる

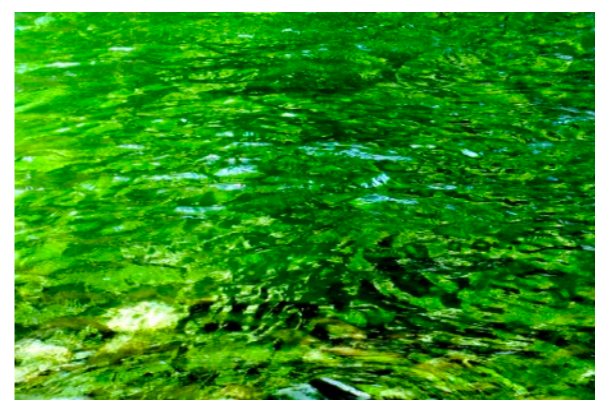
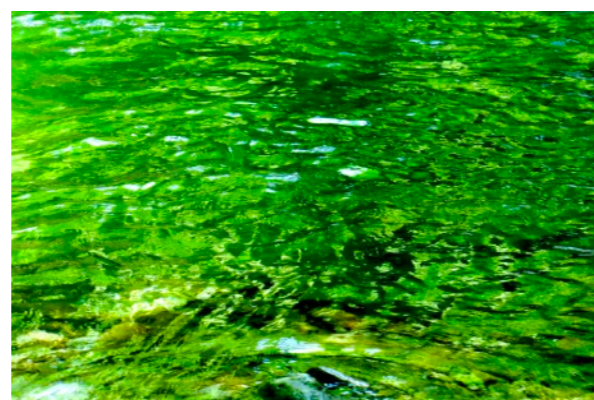
わたしたちは
ことばを覚え
そのことばで
世界を
からだを
つくっている

そしていつのまにか
その世界とからだに
縛られて生きるようになる

つくられる前の世界
ことばを覚える前の世界へと
溯ることはできるだろうか

溯ることはむずかしいが
ことばの深みへと
降りてゆくことはできるかもしれない

分かれるまえの世界
ことばになるまえのことばの源へ



かつて
ミュージュたちは
太陽の光が
あまねく照らすように
うたっていた

やがて
神々が
世界から
その姿を
消していったように
ミュージュたちも
その姿を消し

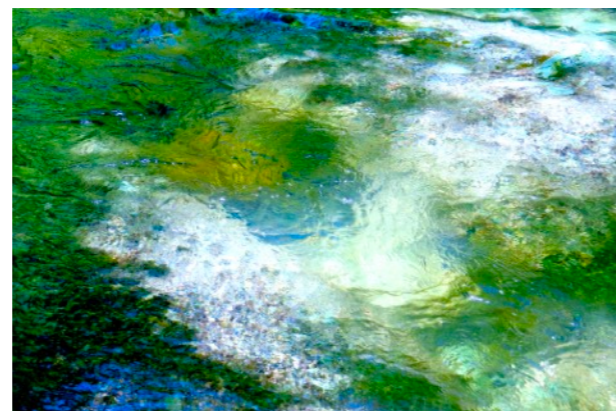
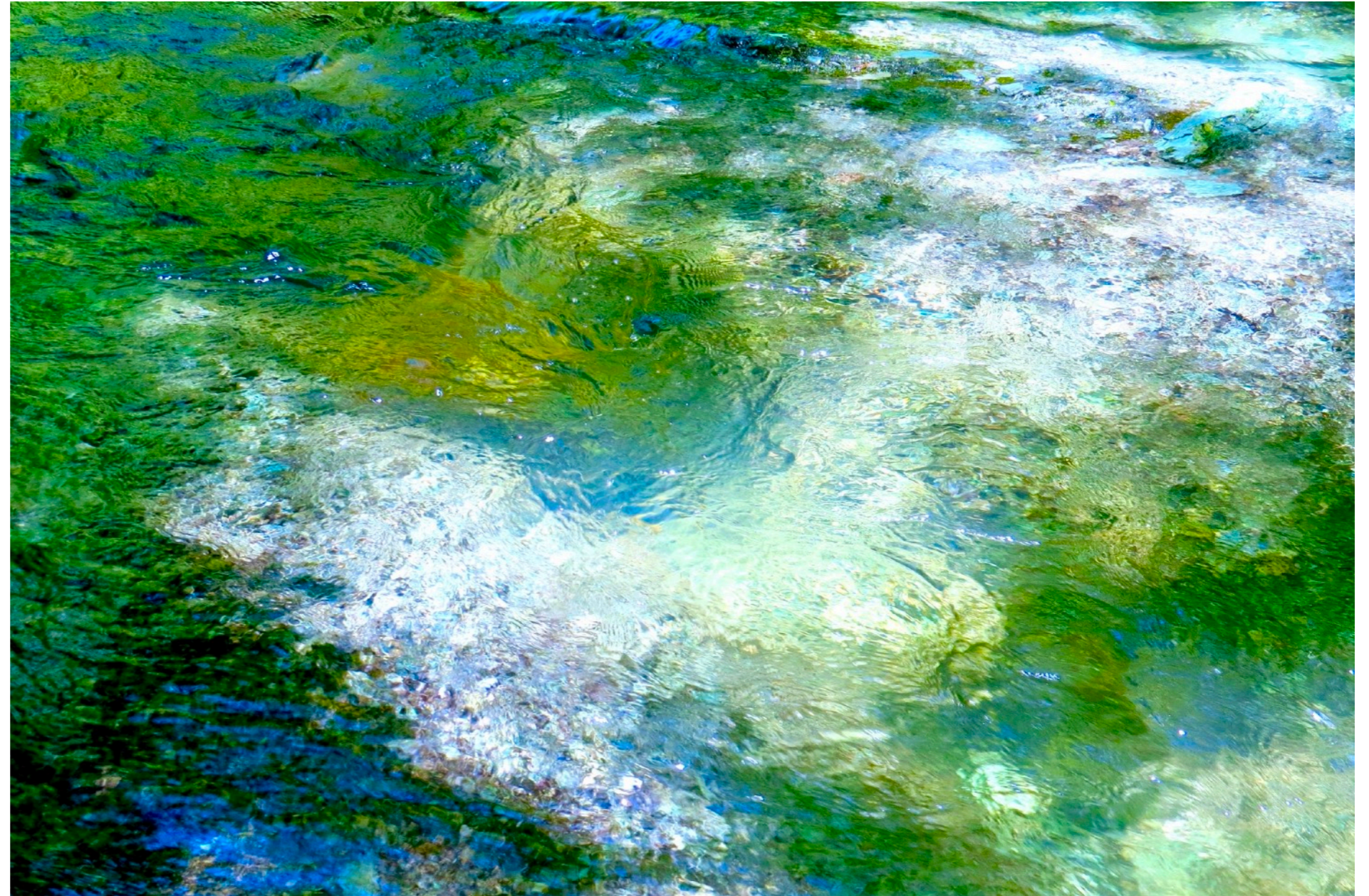
ひそかに
ひとのなかの
内なるうたへと
姿を変えていったが
ひとはそれに気づけずにいた

はじめ
ことばは
うたであった

しかし
ミュージュたちを
見失ったとき
しだいに
ことばから
うたが失われていった

ひとがうたうためには
見うしなっていたうたを
あらたに
みずからの内に
見つけなければならない

そのとき
ミュージュたちは
内なるうたとして
その声を奏ではじめる



与えるものが
与えられ
奪うものが
奪われる

それが
わからなくなると
得るために
奪うしかない世界が現れる

生かすものが
生かされ
殺すものが
殺される

それが
わからなくなると
生きるために
殺すしかない世界が現れる

赦すものが
赦され
罰するものが
罰せられる

それが
わからなくなると
救われるために
罰するしかない世界が現れる



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3232 2023.7.15

この言葉は
届くだろうか

だれに宛てるのでもなく
わたしのなかのあなたに
宛てただけなのかもしれない
この言葉

たとえわたしの知らない
あなたに届くことがあるとしても
そのときにはもう
わたしはいないかもしれないけれど

そのときあなたは
わたしのことを
まるで知らないままかもしれないけれど

いまわたしは
ここにいて
あなたに宛てて
言葉を綴る

それがどのように
受け取られることになるか
わたしにはわからない

わたしが届けようとしたこととは
まるで異なった仕方で
受け取られることになるのかもしれない

それでもわたしは
あなたに届くようにと
言葉を綴り送る

その言葉が届いたとき
わたしは
たしかにあなたと
ともにいるはずだから



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3233 2023.7.16

わたしが
うたうとき

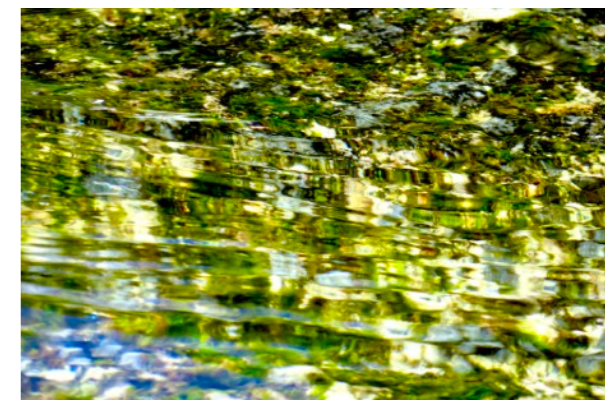
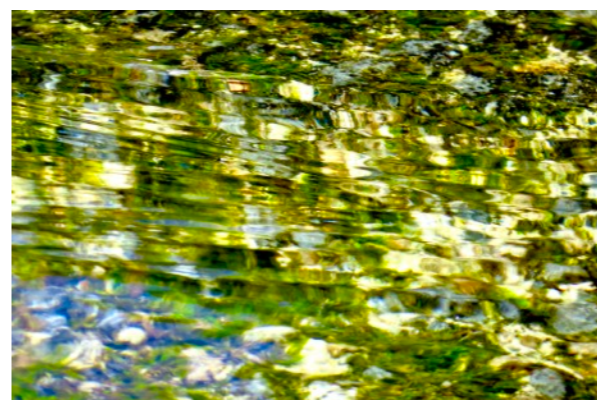
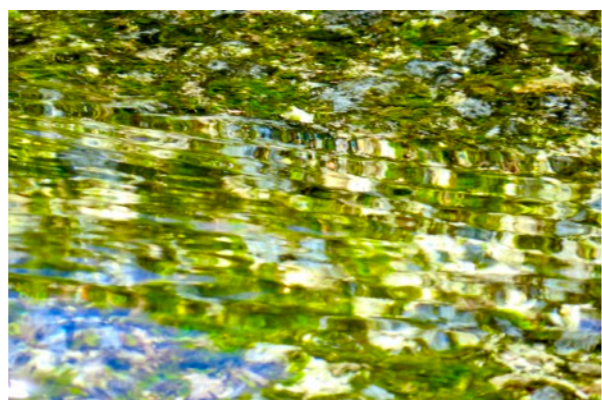
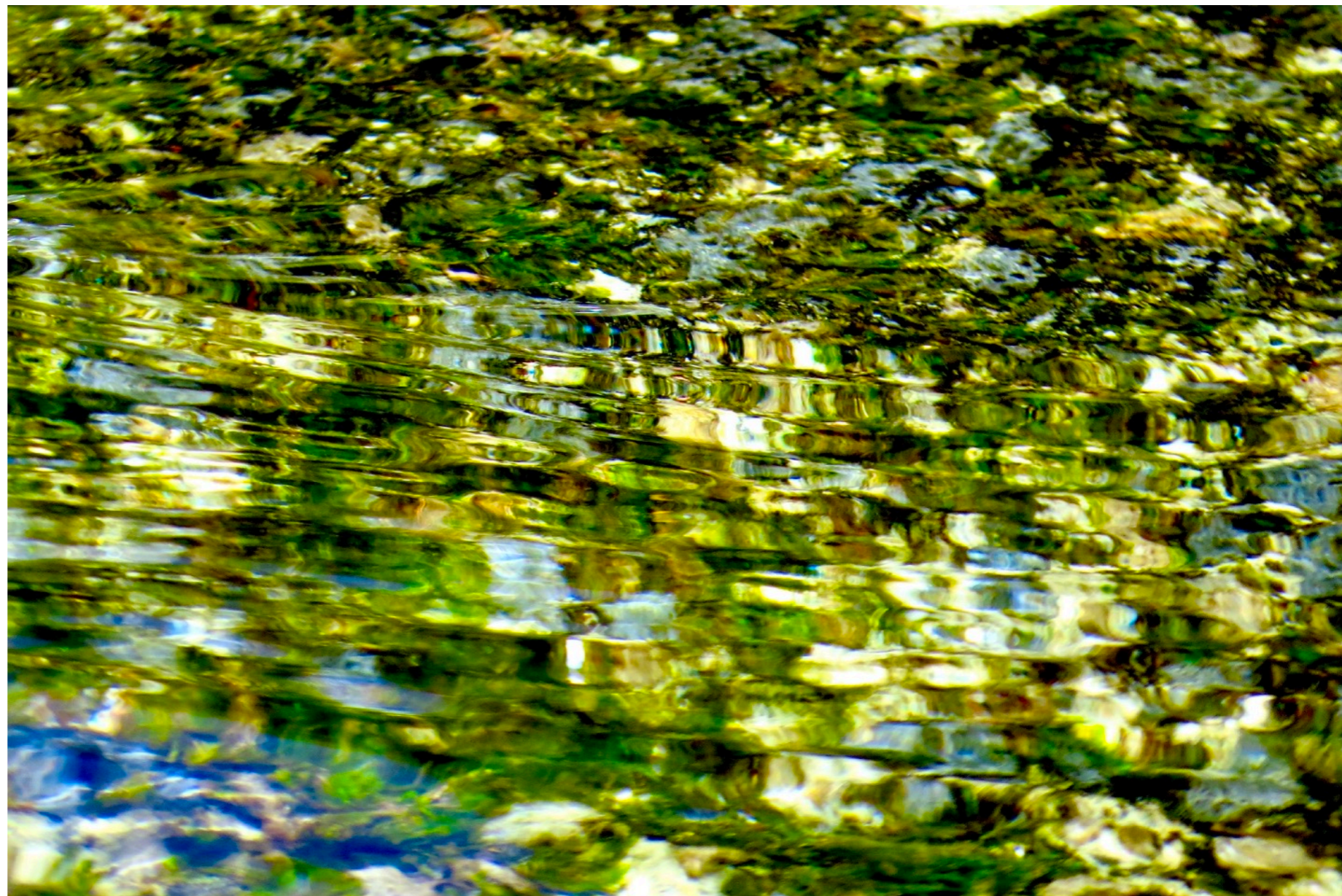
うたっているのは
わたしだけではない

風や空や星も
雨や川や岩も
花や葉や樹も
鳥や獣や虫も

地の霊
水の霊
火の霊
風の霊も

そして
言葉そのものも
言葉の源にある
光も闇も
わたしのなかで
うたっている

わたしたちは
響き合い
宇宙を紡ぎ
織りなしているのだ



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

悲しいときは
悲しい歌を

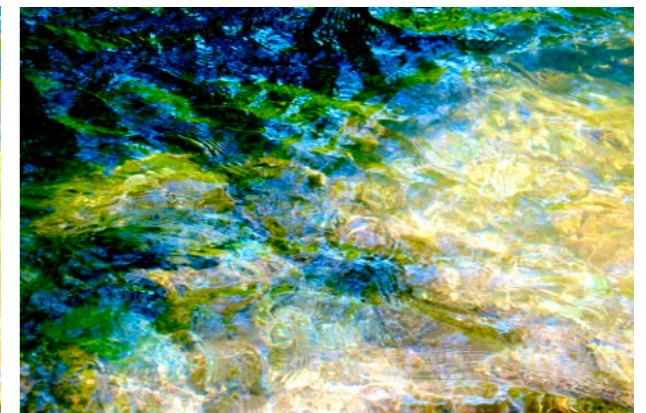
悲しい歌と
ともにあることで
悲しみから
少しだけ離れられるから

悲しみを見つめていると
悲しみは
その色を変えてゆく

絶望のときは
絶望の言葉を

絶望の言葉と
ともにあることで
絶望から
少しだけ離れられるから

絶望を見つめていると
絶望は
その姿を変えてゆく



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

うそをつくところ
かなし

うそをかくすところ
はかなし

うそをごまかすところ
かいなし

うそはどこへゆく
ころはどこへゆく

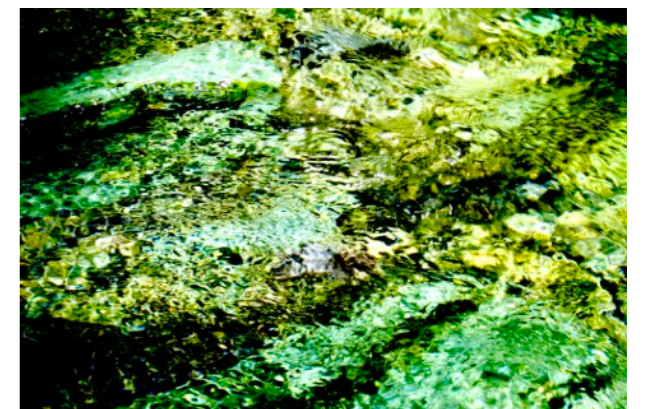
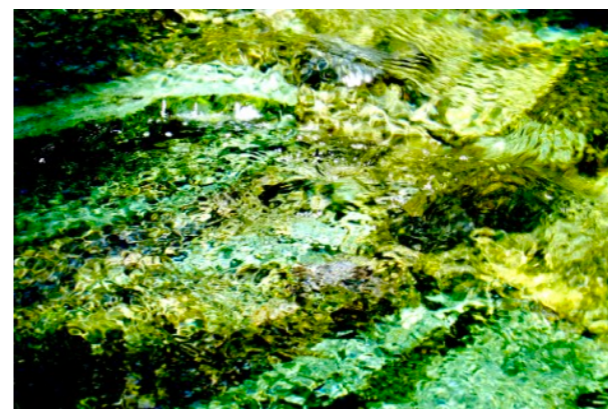
なぜうそをついたのか
うそでなにをしようとしたのか

ころは
うそをうみ
うそは
またうそをうみ

やがて
なにがうそか
なにがまことか
わからなくなり

ふかいもりへと
まよいこんだように
うそは
そのでぐちをもとめ

うそというまことと
まことといううそのあいだを
さまよいはじめる



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

自然は
調教されると
野生を失くしていく

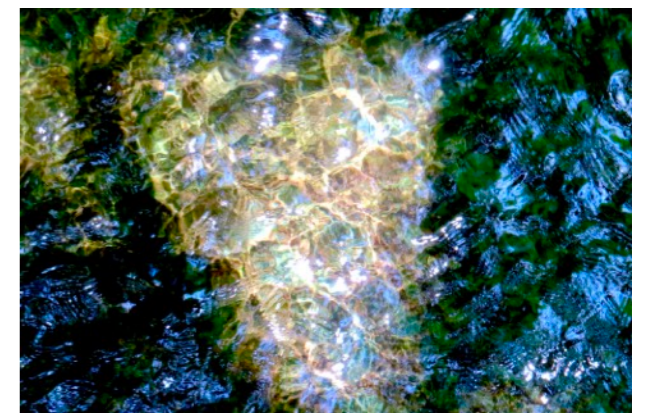
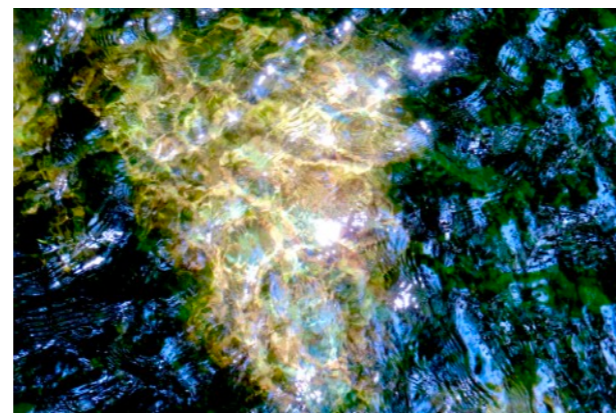
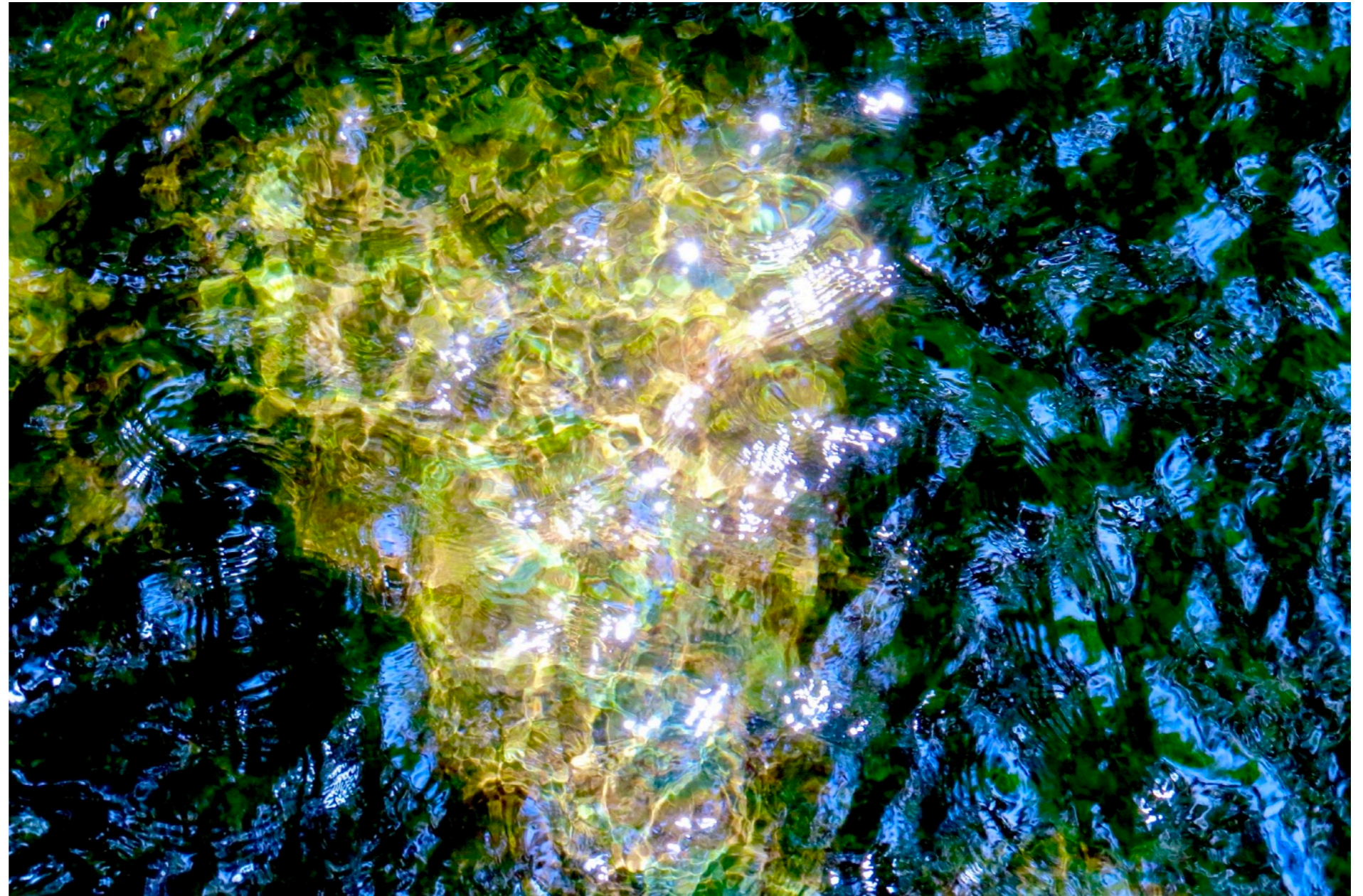
薬漬けにされた体が
免疫を失くしていくように

生を
手綱から解き放ち
駆ける野生へ

知は
教育されると
自由を失くしていく

教えられる答えが
問いを失くしていくように

思考を
目的から解き放ち
飛翔する自由へ



☆photopos-3237 2023.7.20

死とは
不思議だ

私が
死を恐れるのは
生きているからだ
死を語ることができるのは
生きているからだ

私は
この世界では
老いることはできるが
死ぬことはできない
死はこの世界に属さない

あるいは
死者として
語ることはできない
語れるとしても
すでにこの世界に属してはいない

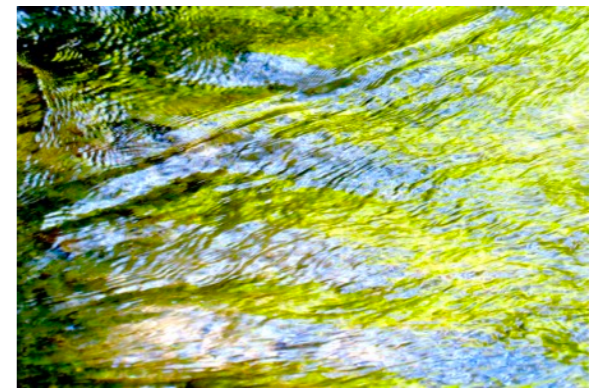
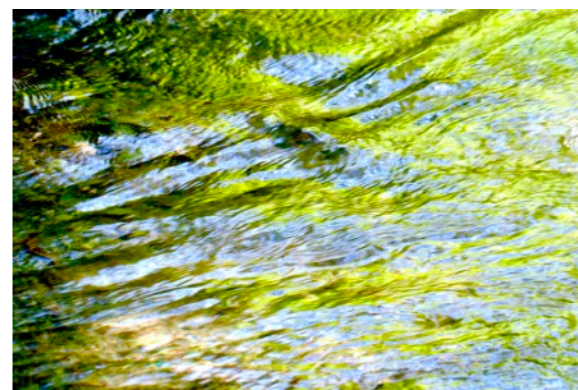
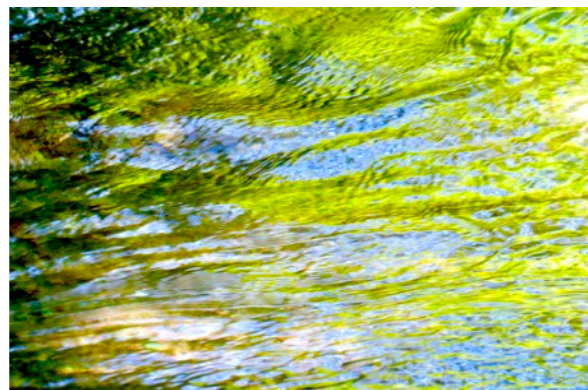
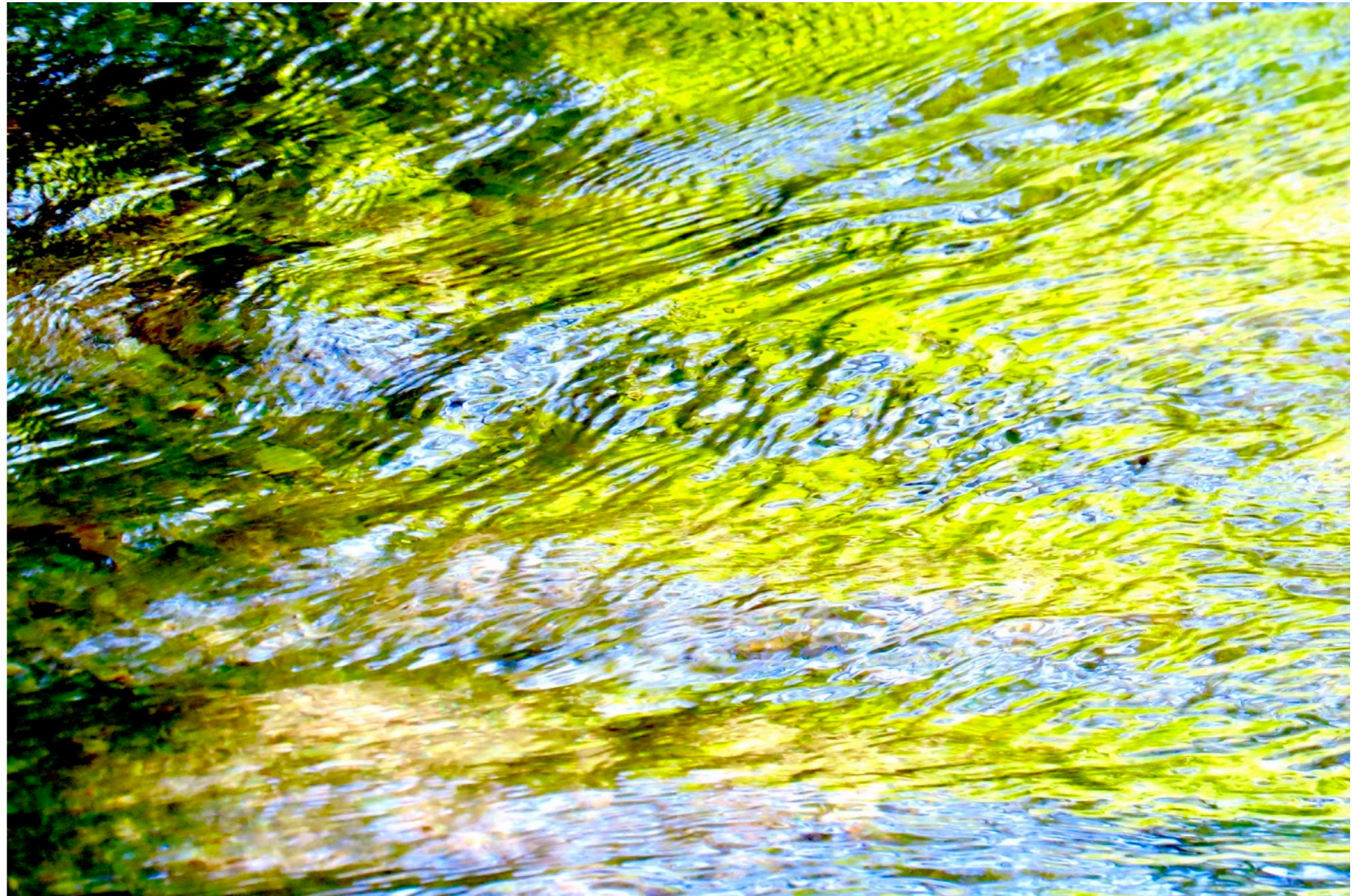
生とは
不思議だ

私は
死を恐れることができる
死を語ることもできる

生きているからだ

みずからの死の後の
世界を気にかけることもできる

じぶんではない人たち
未来の人たちにさえ
生かされているからだ



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

記憶さえ
変わってゆく

たしかなことはどこにあるのか

記憶するひとも
記憶されていることも
変わりつづけてゆく

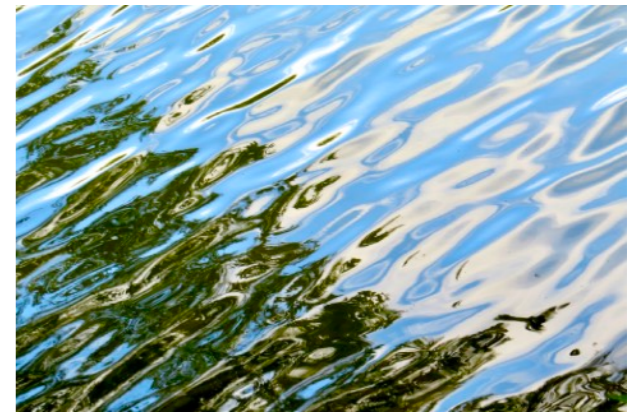
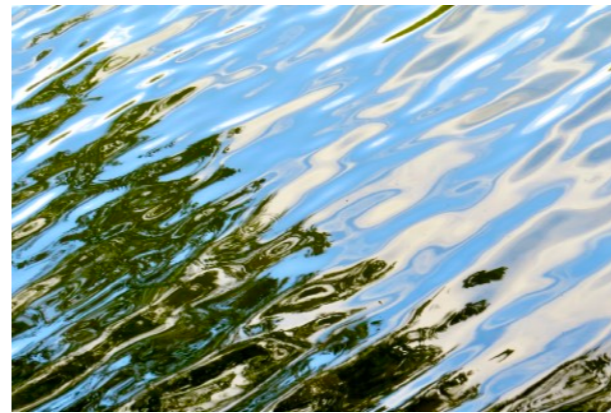
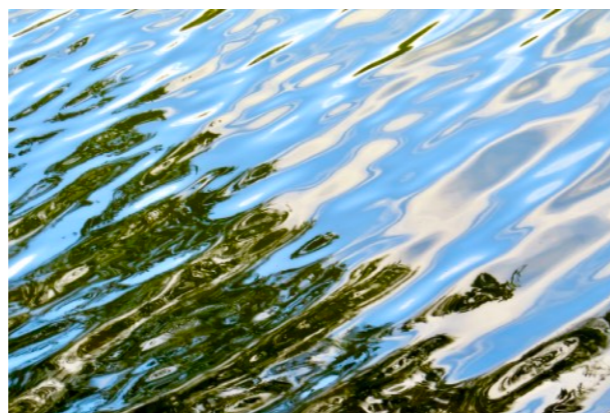
写真も言葉も
いまや複製され加工され
どこにも存在しないものが
真実のような顔をして作られ騙られる

それらをつたえる
メディアもまた
さまざまな力によって変形され
伝える力を失い

真実を写すものでは
なくなろうとしているけれど

内なる鏡を
磨くことを忘れてはならない
微かに微かに
真実の光が届くとき
たしかに映すことができるように

そして記憶のなかに
真実のモニュメントのための
場所をつくることができるように



☆photopos-3239 2023.7.22

生きているから
驚くことができる

生きているから
笑うことができる

生きているから
悲しむことができる

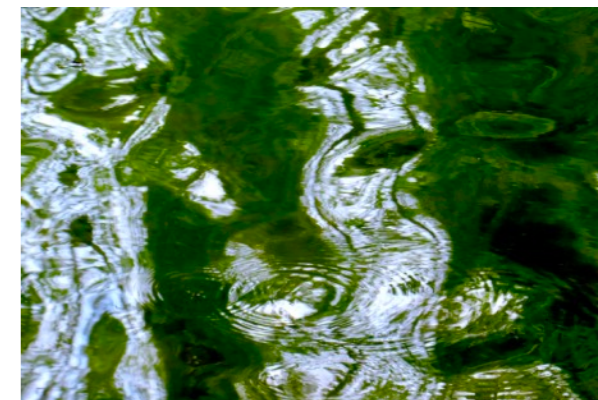
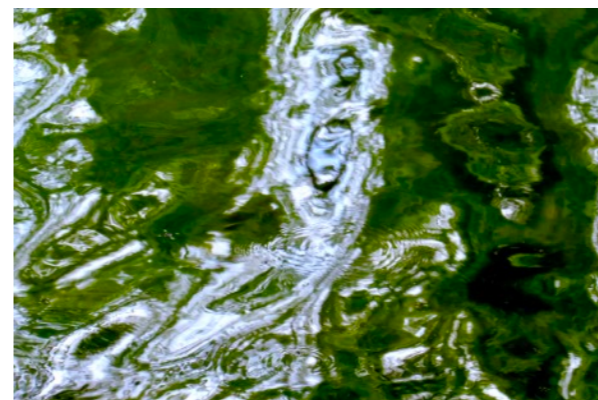
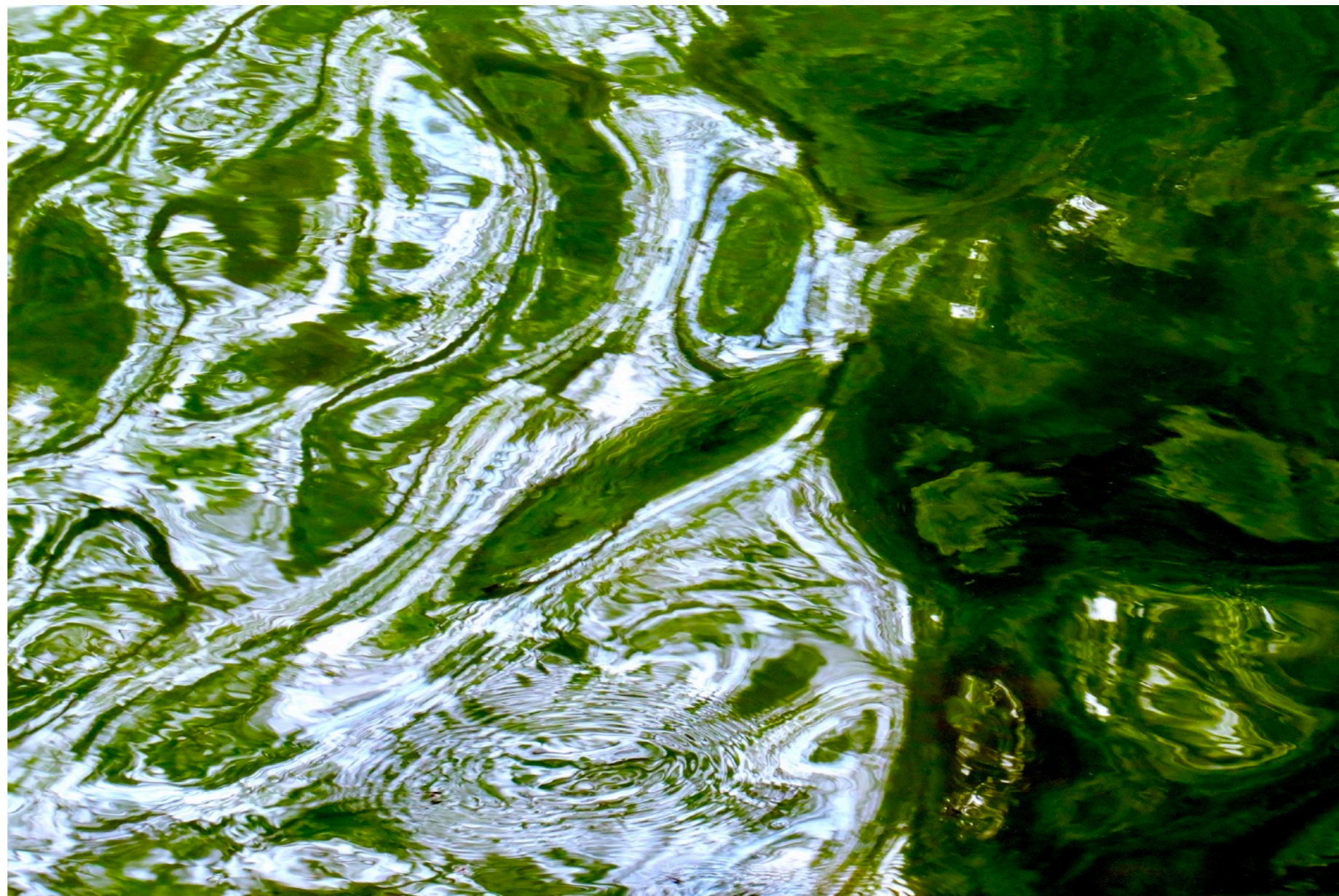
生きているから
愛することができる

生きているから
夢みることができる

生きているから
遊ぶことができる

そして
生きているから
沈黙することができる

沈黙こそ
言葉をこえ
身体をこえて
世界に響いてゆくから



※愛媛県総合運動公園にて

単純なことばは
むずかしい

単純なことばほど
そこに
ほかのことばが
たくさん照らし出され

それがなにを
意味しているのか
わかりにくくなる

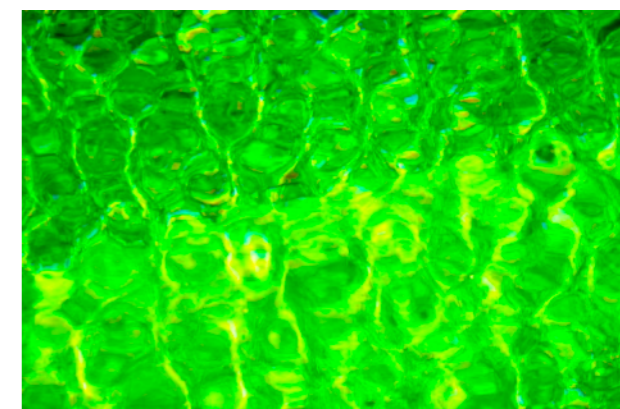
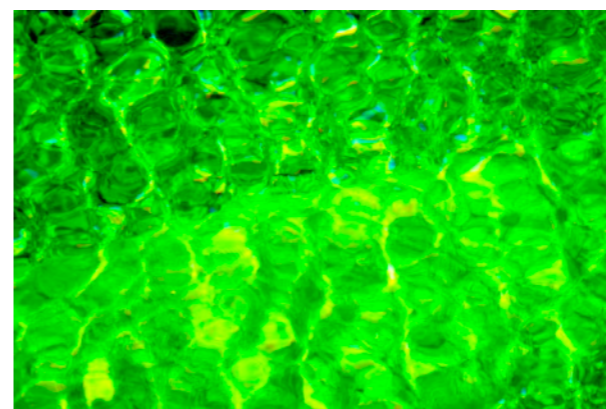
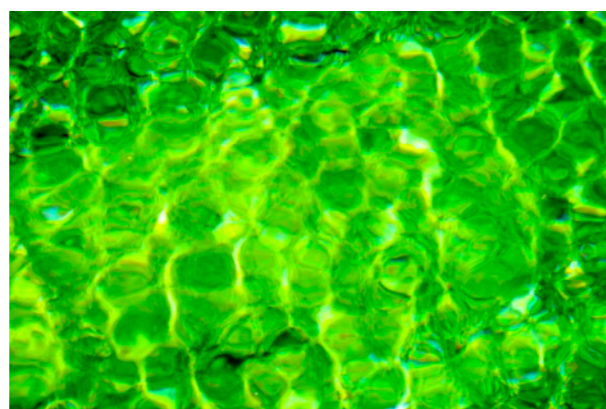
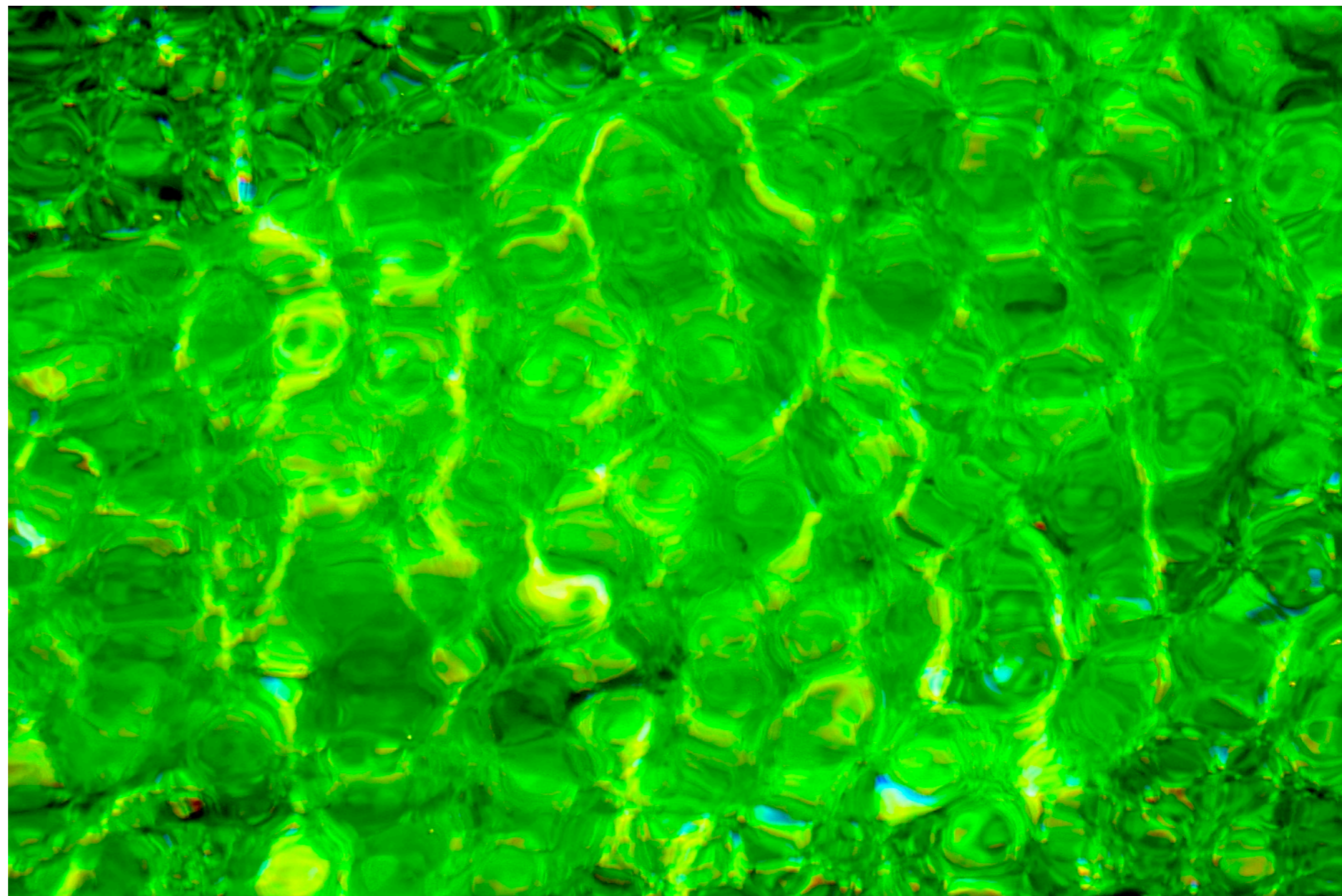
複雑なことばは
むずかしそうにみえて
わかりやすい

それが複雑さのための
複雑さでなければ
ことばはその意味を
照らし出しやすくなる

複雑なところを
単純なことばで表すのは
とてもむずかしいけれど

ことばを使うことに疲れ
ほんのひとこと
ときには沈黙ということばしか
使えないときがある

そんなことばや沈黙と
通じあえますように



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

だれにも
教えられず
わたしは
わたしになる

教えられることで
どんなにたくさん
知識を得ても
どんなにたくさん
技術を身につけても
その外へはゆけない

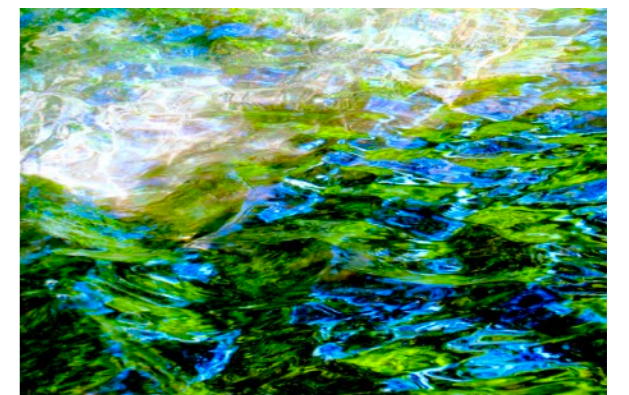
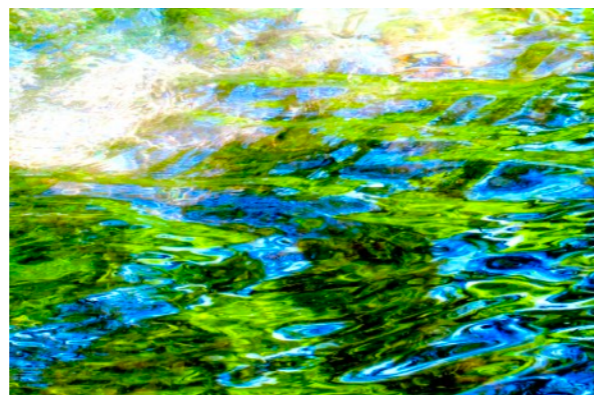
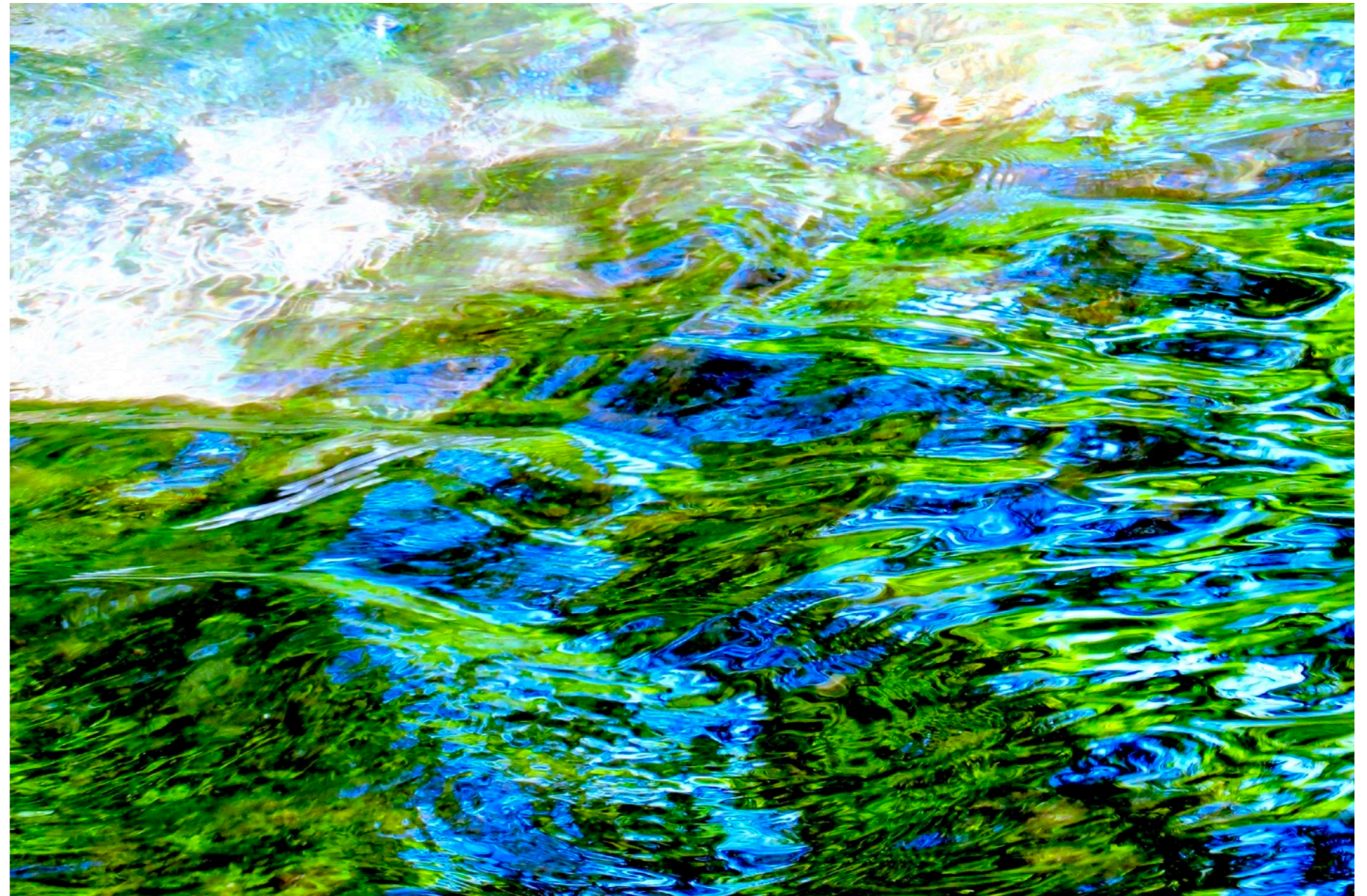
教えられた意味の
閉じた世界では
わたしが
わたしである必要はない
わたしはまだだれでもないわたしだ

わたしが
わたしであるということは
教えられる
その外へと歩むこと

外は未知
わたしは未知だ

未知を歩むことで
わたしは
わたしになり

わたしは
さらに
わたしを超えてゆく



星と
星をつなぎ

どんな星座をつくり
それを生きるか

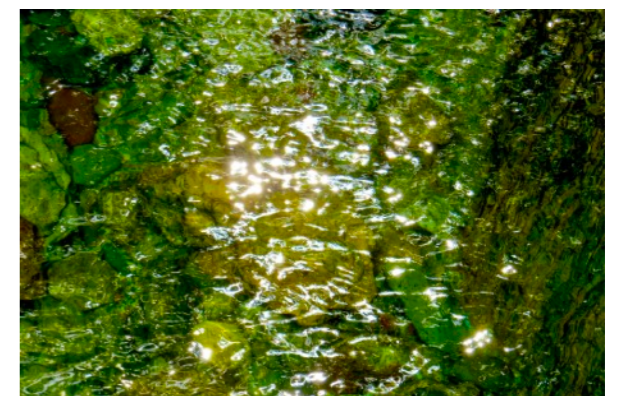
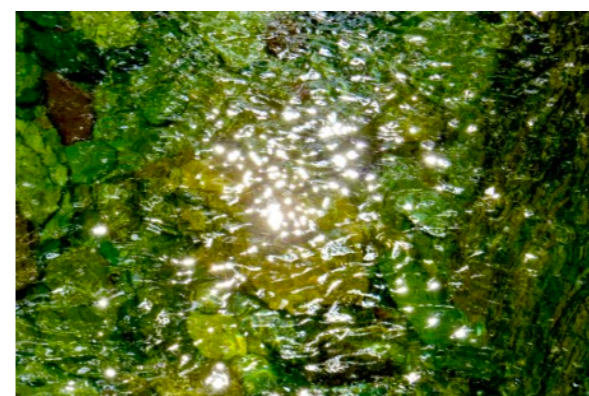
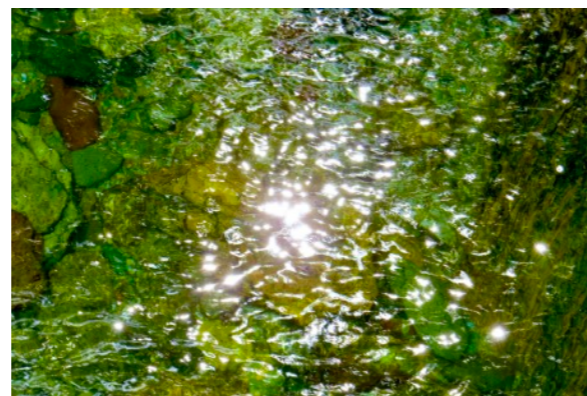
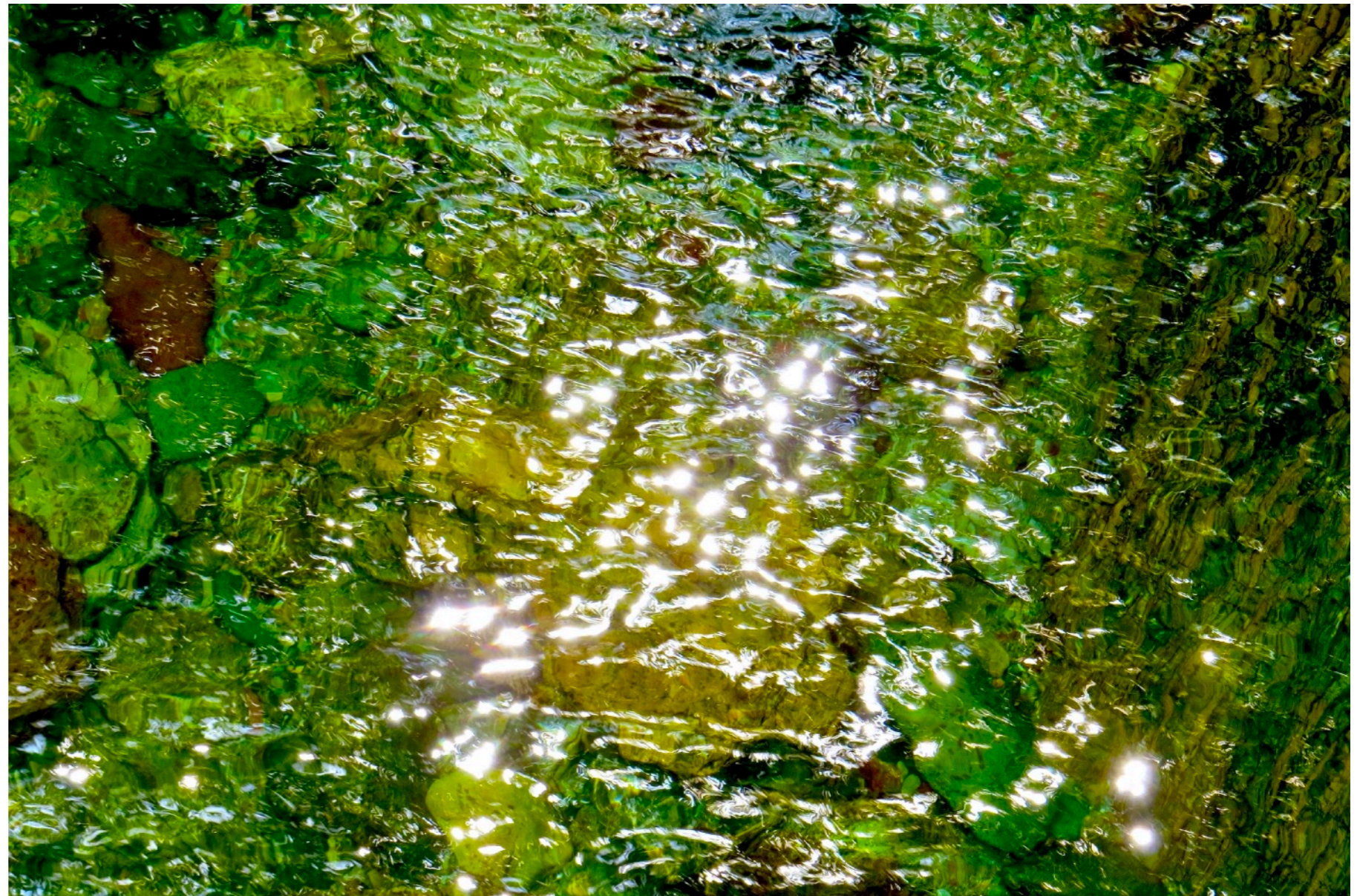
与えられた星座の物語は
わたしを縛るから

わたしだけの星座をつくり
その物語を生きる

そして
あなたとつながるために

わたしの星と
あなたの星をあわせ
その物語を奏でよう

あなたとつくる
星座を生きて



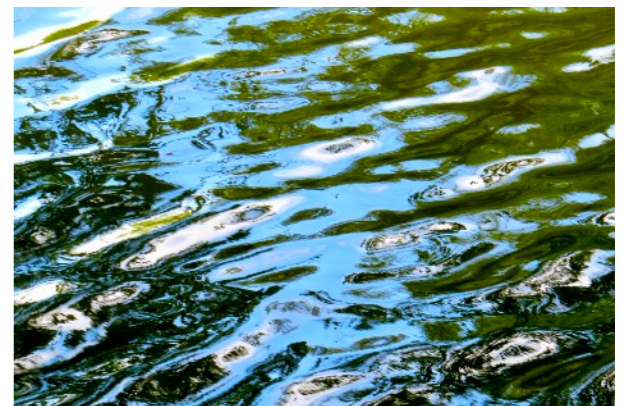
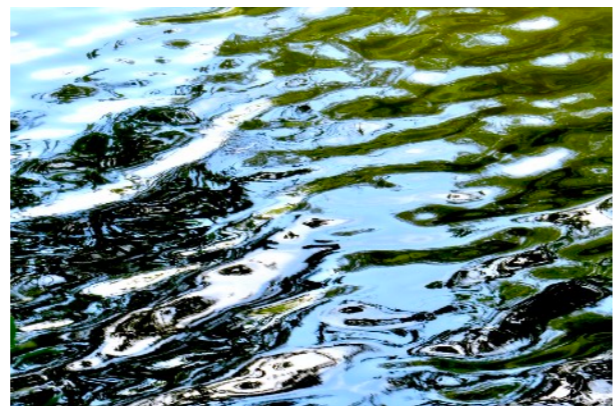
与えれば
与えられる

宇宙は
その連鎖で
現象している

奪うことで
得たとしても
やがて
奪われ
均衡は回復される

不条理とみえる謎も
与えること
与えられることの
時を超えた物語を
みずからが演じる一幕劇

悪夢から
醒めたときのように
一期の夢はただの夢

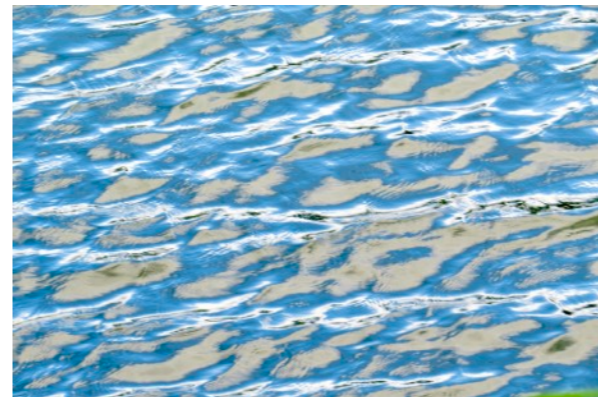


裏を見せ
表を見せて
散るもみじのごとく

言葉は
意味を運ぶのみならず
言葉なき言葉さえ運び

言葉の人は
言葉なき言葉で
織りなされた衣もて
心を幾重にも重ね

心は
裏を見せ
表を見せて
うつろいゆき



※愛媛県総合運動公園にて
（「裏を見せ 表を見せて 散るもみじ」良寛）

☆photopos-3245 2023.7.28

みんなで渡れば
怖くないという
道があるとしても

その道をともしなければ
罰せられるのだとしても

ぼくは
一步一步
ぼくの道をゆこう
歩くのは
ぼくだからだ

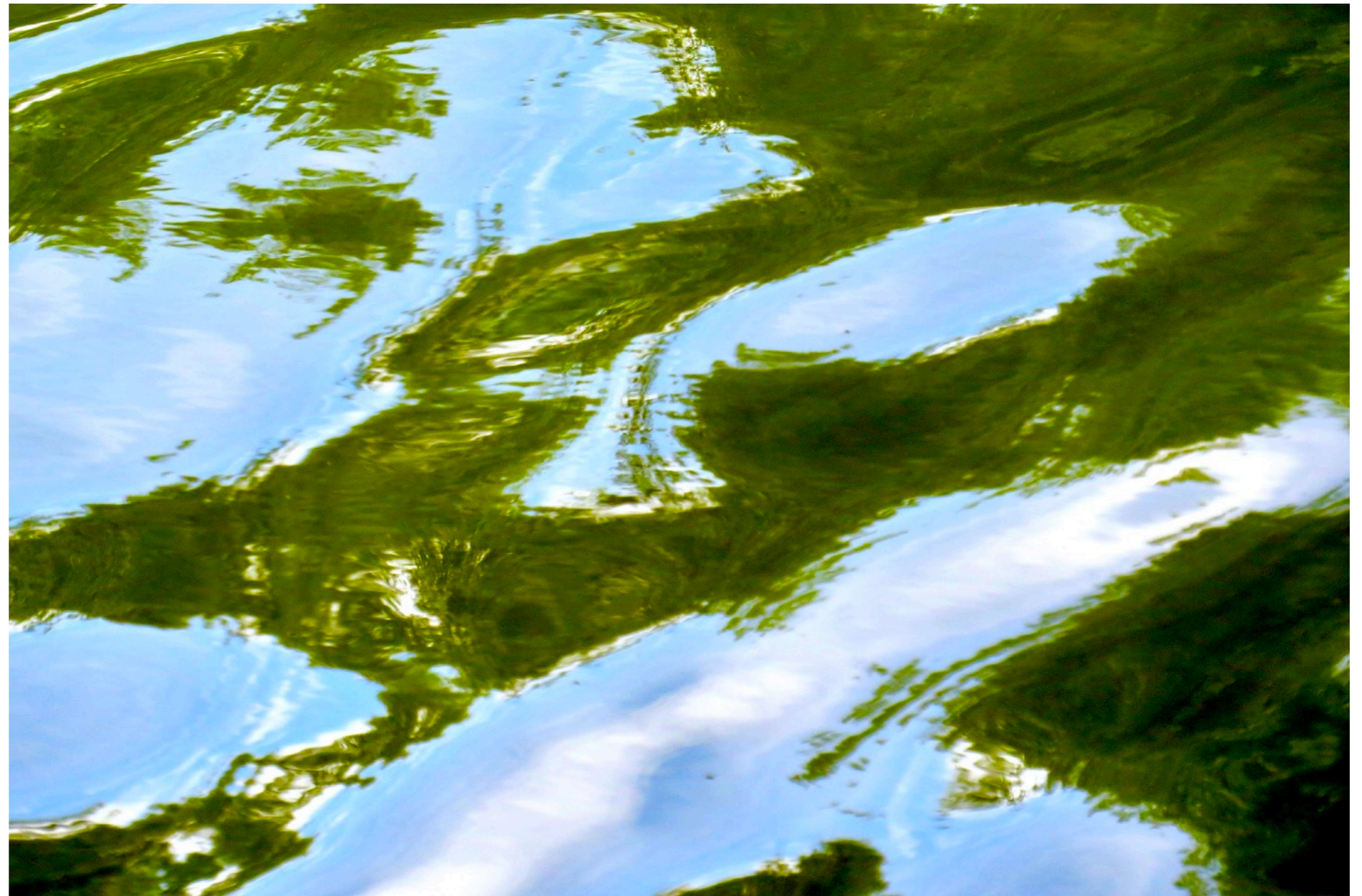
たとえそれが
困難な道であったとしても

偉い人が
言ったから
という教えがあったとしても

その教えに従わなければ
破門されるのだとしても

ぼくは
ひとつひとつ
じぶんで考えよう
考えるのは
ぼくだからだ

たとえそれが
問いつづけるだけであったとしても



※愛媛県総合運動公園にて

歌は
時とともに
消えてゆく

花が
やがて
散りゆくように

ひとまた
死へと
誘われてゆくように

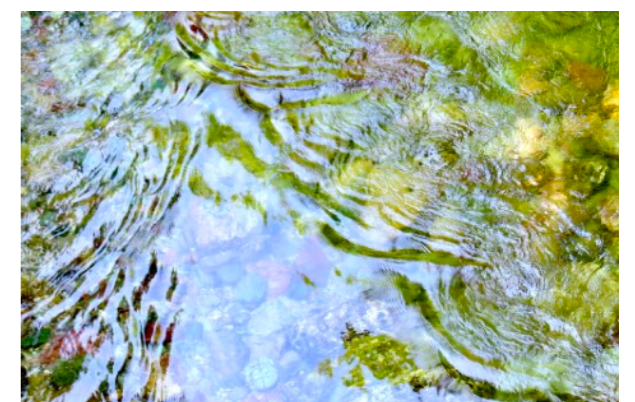
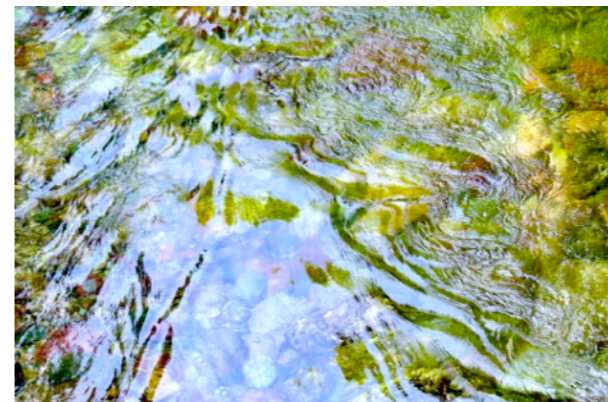
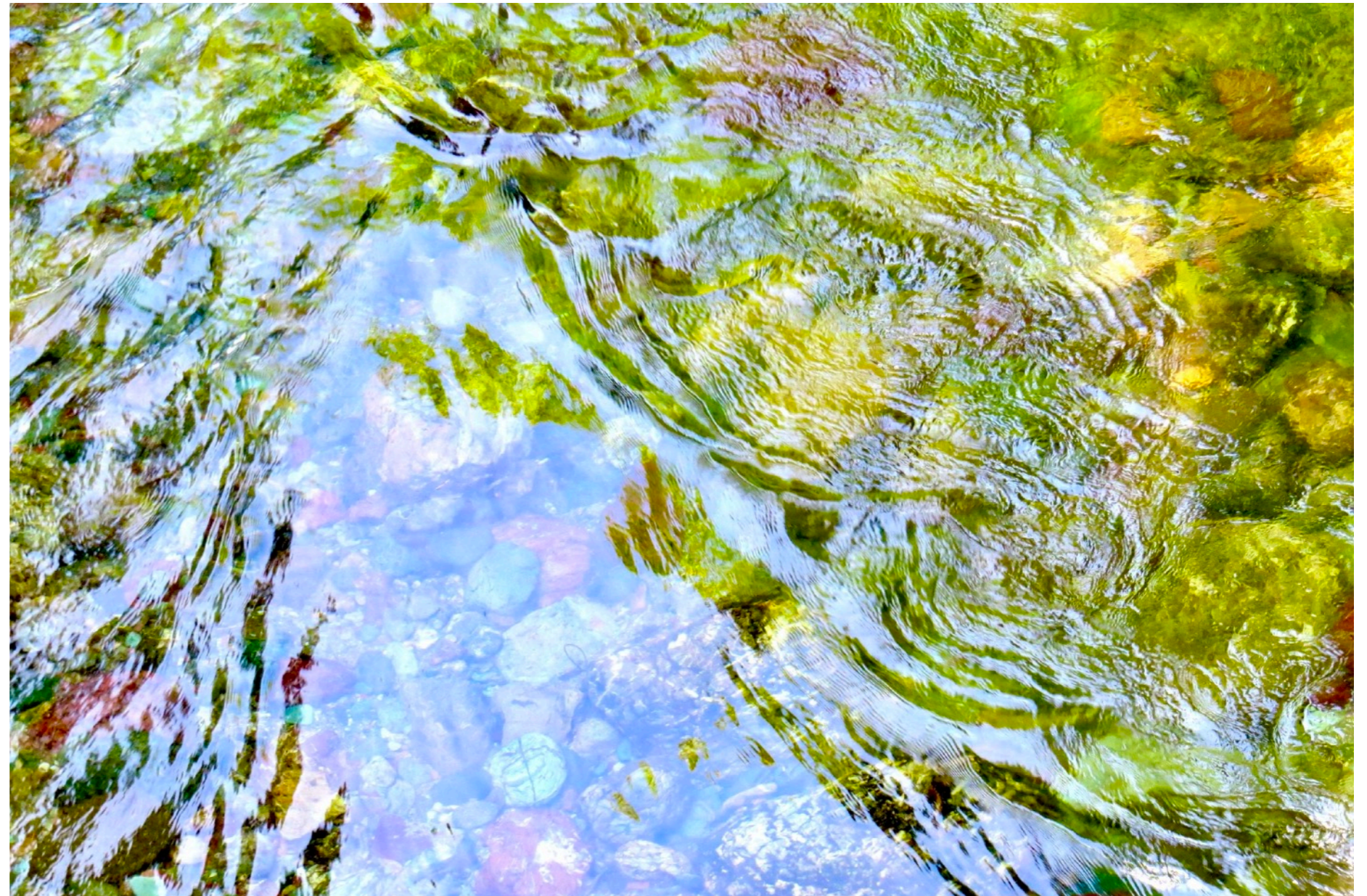
歌は
どこへ
消えたのか

歌は刹那に
消え去っても
歌の永遠は
消え去ることはない

歌う者のあるかぎり
歌は永遠のなかで
歌われ続けているからだ

咲く花のあるかぎり
花は永遠のなかで
咲き続けているように

歌う心のあるかぎり
ひとは永遠のなかで
歌い続けているように



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-3247 2023.7.30

わからないものを
じぶんの世界の外へと
投げ捨ててしまうと

わからないものは
なかったことになる

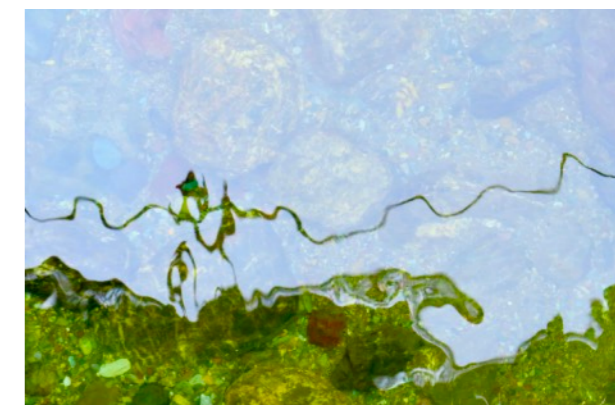
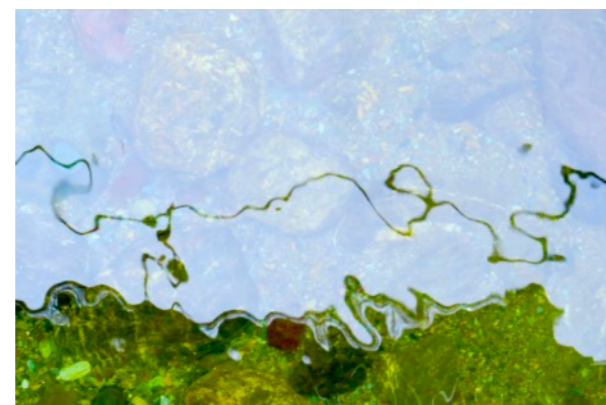
わからないものを
わからないまま
その世界にふれてみようとすると

言葉にはできないとしても
わからないものは
わたしの世界の
いちぶとなるうとしはじめ
世界はひらかれ変わってゆく

嫌いか好きか
それを決めないでいると
嫌いなものも好きになり
好きなものは
もっと好きになるかもしれない

良いことか悪いことか
それを分けないでいると
白でも黒でも灰色でもない
そんな色が見えてくるかもしれない

ひろがれ！
わかることの外へ
わたしの外へ
世界の外へ



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

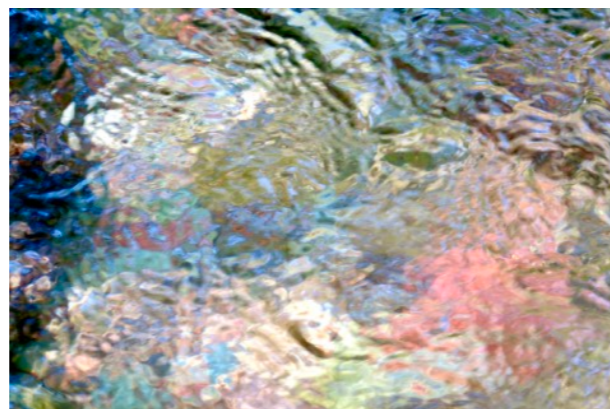
☆photopos-3248 2023.7.31

生きるために
わたしは食べる

いのちを食べる
ことばを食べる
うたを食べる
こころを食べる
じかんを食べる
ひかりを食べる
あいを食べる

生かすために
わたしは食べられる

いのちに食べられる
ことばに食べられる
うたに食べられる
こころに食べられる
じかんに食べられる
ひかりに食べられる
あい食べられる



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

見ることを
育てているか

育てられない眼は
光をなくし
ただの自動キカイになる

聞くことを
育てているか

育てられない耳は
歌をなくし
ただの自動キカイになる

嗅ぐことを
育てているか

育てられない鼻は
おかしいことに気づけない
ただの自動キカイになる

味わうことを
育てているか

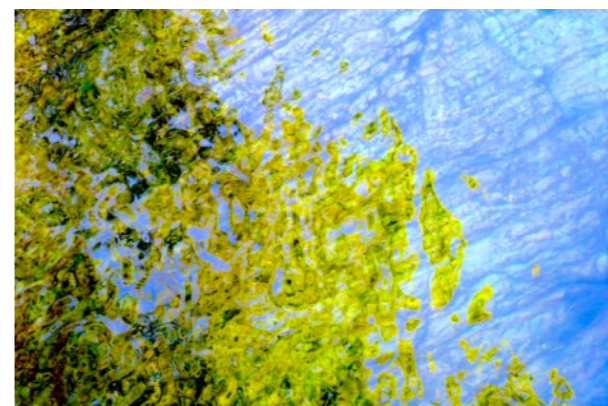
育てられない舌は
世界を味わえない
ただの自動キカイになる

触ることを
育てているか

育てられない手は
あらたなものを作れない
ただの自動キカイになる

思うことを
育てているか

育てられない心は
型どおりの思考を重ねるだけの
ただの自動キカイになる



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-3250 2023.8.2

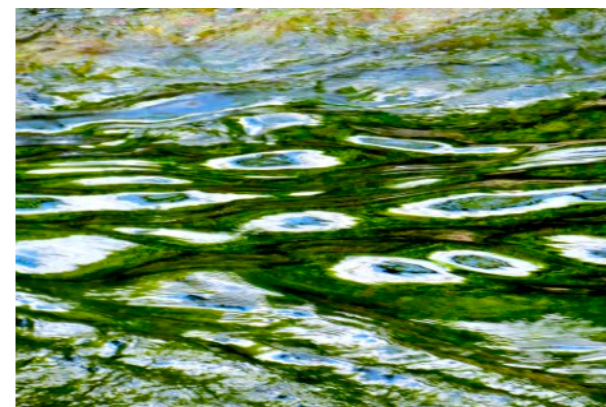
夜空に
描かれる
星座のごとく

心に
瞬く
無数の星は

夜毎夜毎
夢の
宇宙に
星座を描き

毎瞬毎瞬
変幻し続ける
夢の姿の
顕れのごとく

心の鏡に
映し映され
変転し続け



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて